



街の魅力に気づく本【街本】のかわら版

TAKE
FREE

JOURNAL

マチポン

2024 SUMMER ISSUE
マチポンジャーナル

VOL. 007

愛媛ゆるりずむ。
時なライフスタイルペーパーだよ。

【特集】

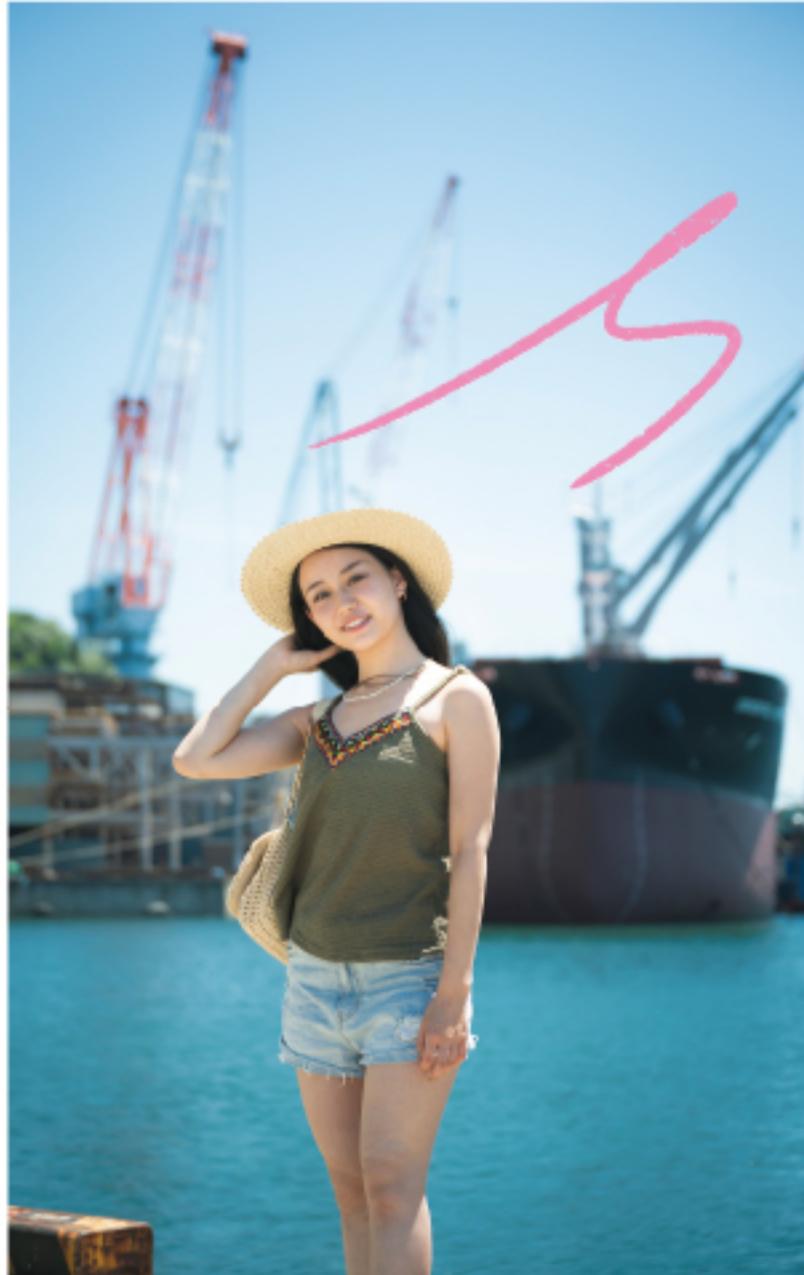
summer madness



こんにちは、マチポンジャーナルです。フリーペーパー・SNS・YouTubeやらなんやらで、えひめ暮らしを愉しむための情報をお届けしています。さて、今回の特集は「しまなみを巡る旅」。見近島知つてました？恥ずかしながら僕は知りませんでした…。築島から歩き、もしくは自転車やバイクでしか渡れない島、そこにはキャンパー達の聖地と呼ばれる場所が。(体を張って取材してきましたが、詳しい様子はまた次号で…). 今号も感動のコンテンツ満載で、手に取って頂けると幸いですー！

Contents

* 特集: summer madness 大島・佐方島・見近島トロッピング * COLUMN



おおしま
大島
はかたじま
伯方島
みちかじま
見近島トリップ

Summer

季節は夏。英語講師ひかりが、しまなみ海道の大島・伯方島・見近島を巡るショートストーリー。
聞き覚えの無い見近島とは、伯方島と大島の間にある。
徒歩もしくは自転車かバイクでしか渡ることの出来ない無人島。
かつては能島村上海城の中継拠点だったという島が、今では水場や水洗トイレなどが設置され、
キャンパーの聖地とも呼ばれる人気のキャンプ場に。
たまにはこういった、少しスパイスを効かせた旅も良いかもね。

text./ryosuke matsuhashi
direction./ryosuke matsuhashi, noriwa
photo./chieni
design./kota sakamoto
models./hikaru&noriwa, misamisa, yamazaki, takumi, chaya, misato



SPOT 青と酵母と古民家と

1
O SHIMA
オーナー自らが掘ってきた愛情の食材を使用した、卵力あるモチモチパンは完売必至。
コナノワ
今治市吉田町友浦3227-1 休:月・火・木・金・日曜
営:10:30~13:00, 13:30~16:00(売り切れ次第終了)
P:有



SPOT しまなみの小さなワイン屋

2
O SHIMA
手に取りやすい価格のワインが揃う自然派ワイン専門店。
墨面のロケーションでお気に入りの1本を選び。
enoteca NATURALE
今治市吉田町田浦406 休:070-4011-6533
休:無休 営:11:00~16:00 P:有



So cute!

Wahahaha

BB

BB

BB

BB

BB

BB

BB

BB

SPOT お腹も心も満たされる 具だくさんサンドイッチ

3
O SHIMA
ute(ウーテ)
パンは自家製、具材はなるべく島のものを使用するこだわり。
お店裏のベンチからは瀬戸内海を眺めることができる。
今治市吉田町田浦3118-1 休:080-1337-5716
休:月~水曜 営:10:00~16:00 P:有



SPOT 見渡す限りのThe瀬戸内海

4
HAKATAJIMA
春には約1,000本の桜を楽しむことができ、頂上展望台からは伯方・大島大橋、大三島橋、多々羅大橋が一望できる。
開山(ひらきやま)公園
今治市伯方町伊方 休:無 営:自由 P:有

madness



5 STOP みかんとお菓子の二刀流

みかん農家を手伝いながら週3日だけオープンする島のお菓子屋さん。自家栽培の柑橘が爽やかに香るお菓子が並ぶ。

みかんときどき おかし

今治市伯方町伊方平野63-6 電:0897-73-1230
休:月~水曜 営:13:00~17:00 P:有

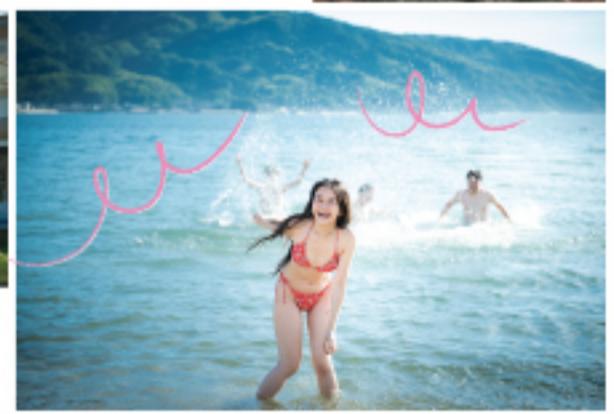


伯方島観光の拠点スポット

美しい海水浴場に、しまなみの本土風が残る道の駅。伯方の蜜を使用した「伯方の蜜ソフトクリーム」がオススメ。

道の駅 伯方S・Cパーク マリンオアシスはかた

今治市伯方町叶瀬甲1661-1 電:0897-72-3300
休:毎日、冬季定期日有り 営:9:00~17:00(冬季開史更有り) P:有



6 STOP 趣ある「母屋おもや」でひと休み

サイクリングロードの近くに肉舗を開いている。特にサイクリストにオススメの『八朔生甘酒』で元気をチャージ。

OMOYA.

今治市伯方町伊古那2076-1 電:089-4782-8519
休:月~水曜 営:12:00~14:00 P:有

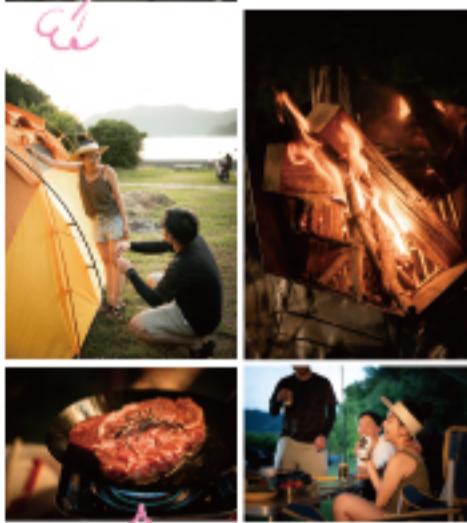


8 STOP サイクリスト・バイカーキャンプの聖地

大島と伯方島の間にある無人島。裏では行くことができないため、しまなみキャンプの中でも知る人ぞ知る穴場スポット。

見近島キャンプ場

今治市宮窪町宮窪7689 営:24時間 P:無(車の通行不可)



海賊たちの夢の跡で夢心地。

あー青い風ー、切って走れ、あの島へーーー「青い珊瑚礁」とは、全くもってNew Jeansいや、ミン・ヒジンはイカしてるよね!なんてことを考えながら初夏のしまなみ海道ドライブ、旅に出るのに理由なんてない。強いて言えば、家と職場を往復するだけの日々に、少しだけ心が疲れたくらい、灼熱の来島海峡大橋を走り抜け、辿り着いたのは大島、支浦エリアをしばらく走って、ベーグルが人気のコナノワへ、古民家を改装した天井の高い空間でベーグルとレモンスカッシュを買って、古い建物ならではの狭い廊下を通り階段を上る。ガラスの扉を開いて目の前に青い海が現れた瞬間、全ての嫌な事が許せる気がした。夜どうするかも決めていないが、今日は飲む!となればワインでしょ、美しい景色と落ち着きすぎる空間が名残惜しいが、オーガニックワインが揃うenoteca NATURALEへと、いざ出発。到着すると大きい体でじゃれてくる看板犬の姿に和む。店主が運んでくれたワインを抱えて、大阪からの移住者が新しくオープンしたと噂のサンドイッチ店uteへ。見るからに美味しいそうな商品が並ぶ中、迷わずアボカドとベーコンとチーズのサンドイッチを購入。なんなら今すぐ頬張りたいがワインのつまみにと我慢。せっか

くここまで来たのだから海に入りたいし、ドルフィンファームでイルカと触れたい!まだまだ日が高いし隣の伯方島まで行くことにしよう。

イルカの島、からの 知られざる秘島へ。

伯方島は数年ぶり、昔キャンプで来たよなあ…懐に浸りながら開山公園へ。春は桜が有名で、あまりの没落ぶりに誇めて帰ったことがあるのを思い出す。展望台を上ると、しまなみ海道が一望できる。隈研吾による亀老山展望公園も勿論素敵だけど、今日の気分にはこの田舎らしさがしっくりくる。海へ向かう途中、小腹が空いたので、みかんときどき おかしへと立ち寄る。みかん農家を手伝うために帰郷した女性が、規格外の柑橘でお菓子を作り、もっと柑橘の良さを伝えたいと立ち上げたお店だ。洗練されたデザインと濃厚な味わいのゼリー状のフランス菓子や焼菓子が斬新で、食べるのが惜しくなる。が、美味しい頂く。店主の女性から、京都からの移住者による甘酒やアイスを販売する店が近くにできたと聞き、甘酒に目が無い私は当然寄らねば。古民家というか農家の趣を改修したというか、少し不思議な空間で、

昔からのその場所の星号をローマ字にしたOMOYAというのが店名らしい。団扇のない美顔が印象的な店主に勧められて、軒先で飲んだお日当の八朔生甘酒は、蜜柑且つ爽やかな風味で大満足。…そしてようやく、海に到着。時間的にドルフィンファームは諦めよう…、新調した水着に着替えて海に入ろうとすると、三人の姉妹が声を掛けてきた。いつもなら相手にしないのだが、今日はまあ良いか。それはそう開放的な気持ちにさせる夏のせいだ。彼らからBBQに誘われて、マリンオアシスはかたの蜜ソフトを片手に隣島の見近島へ。見近島?聞いたこと無いよ…。どうやら伯方島から徒歩もしくは自転車や原付でしか行けない、キャンバーの聖地らしい。汗だくになりながら40分ほど歩くと、気持ちの良い風が吹き抜けるキャンプ場が。瀬戸だから海も驚くほど近く。しばらくすると彼らの友人たちも合流しての宴が始まった…。翌朝、暖かい太陽に目が覚めると周囲には誰もいない、夢?異人たちとの夏だったのかな…。うーん、疲れたら、しまなみ!



Collabo house x architect

Collabo house select
favorite hotels
by machibon journal



設計士はこの人



コラボハウス 一級建築士事務所

設計兼 現場監督

古賀 尚斗

京都府京都市出身 京都工芸高等専門学校卒業

入社一年目であり、一級建築士。京都出身で古見家、古くからの建築に囲まれて暮らしてきました古賀さん。大学時代の論文テーマも歴史的建築物に関するものだったそう。愛媛に移ってから、訪ねたいと思っていた木屋旅館。学生時代の研究とリンクさせながら、名旅館を訪ねます。

コラボハウスの 一級建築士と巡る名旅館。

愛媛県をはじめ、県内外で「ちょっとかっこいい家」づくりを手掛けるコラボハウス一級建築士事務所。そんなコラボハウスの設計士は、日々、暮らすことの心地よさを探求しつづけています。彼らのライフワークでもある心地よい宿巡り。建築士の琴線に触れる宿を訪ね、心地よい空間について細解く旅へ出かけましょう。

EHIME/UWAJIMA KIYARYOKAN Hotel tour with a first-class architect of "Collabo House"

TEL 01

愛媛県

宇和島市

木屋旅館



偉人が愛した歴史の宿、新たな魅力で再生

明治44(1911)年創業。かつては、政治家の後藤新平、大農耕、作家の司馬遼太郎等、数多くの偉人が宿泊しましたが、平成7(1995)年、惜しまれつつ廃業に。長らくそのままにされていましたが、平成24年春、新しい滞在型の観光名所とし、再生オープンしました。その後、国の登録有形文化財に選定。新しく生まれ変わってなお、有形文化財としての価値を保つ宿の魅力に迫ります。

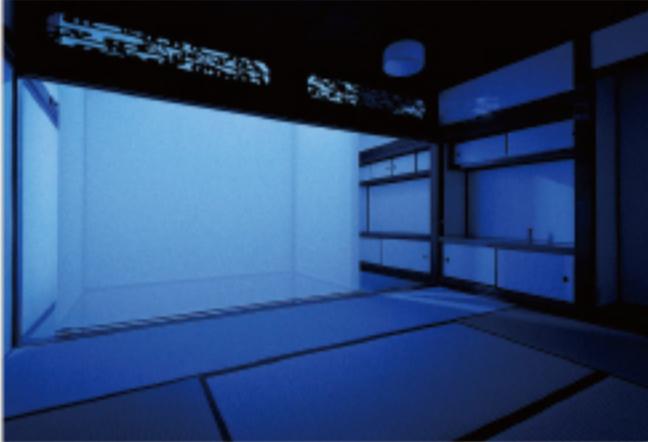
Tel 089-6041 愛媛県宇和島市本町通2-8-2 TEL:0895-22-0181 実:チェックイン/15:00 チェックアウト/11:00 P:あり 2台 休日料のみ可200円



案内してくれたのは、木屋旅館
ジエネラルマネージャーのグレブ
バルトロメウスさん。ドイツ・フライ
ブルクと愛媛県松山市が友好
都市だった頃で要援へ多忙。現
職に就き、もともと異姓があった
家族への連絡も済めたそう。



中庭の光が優しく入る半廊下、道具もすべて見
守するものを利用。窓ガラスは墨塗り下地のにはな
い壁みが、どうみのある光沢を生み出す。古_エ
ントランスで見える柱や大井の梁も古い素材のま
ま、「100年育った木は100年もつ家を作る」といわ
れるように、木材の温もりと温かみを感じられる。



上_かつてこの場所が城の堀であったことから、建物の下や庭には大きな石が残る。粗木や漆もそのまま使用。下_2階の各部屋には墨書きから拂ひるスクリーンが、LEDライトが建物全体を映像なアート作品のように魅せる。

何も足さない、引き算で生まれる新しい家

アクリルの床も、外せばすぐもとどおりに。
構造を残しながら価値を高める工夫を。

木屋旅館で一番印象に残る、透明なアクリル床。ただ奇抜なアイデアというわけではなく、建物の梁の太さや当時の職人技の緻密さ、思違いまで魅せるためのデザインになっている。また驚くのは床の間にある斜めの飾り棚や、出窓に使われる一枚板など、いまでは新しさすら感じる設えの数々だ。欄間の細工も部屋ごとに迷ったり、部屋ごとの小さな窓からは、庭の季節の移り変わりが楽しめるように配慮されていたりと、この家で過ごす時間を楽しむための工夫がいたるところに見られる。

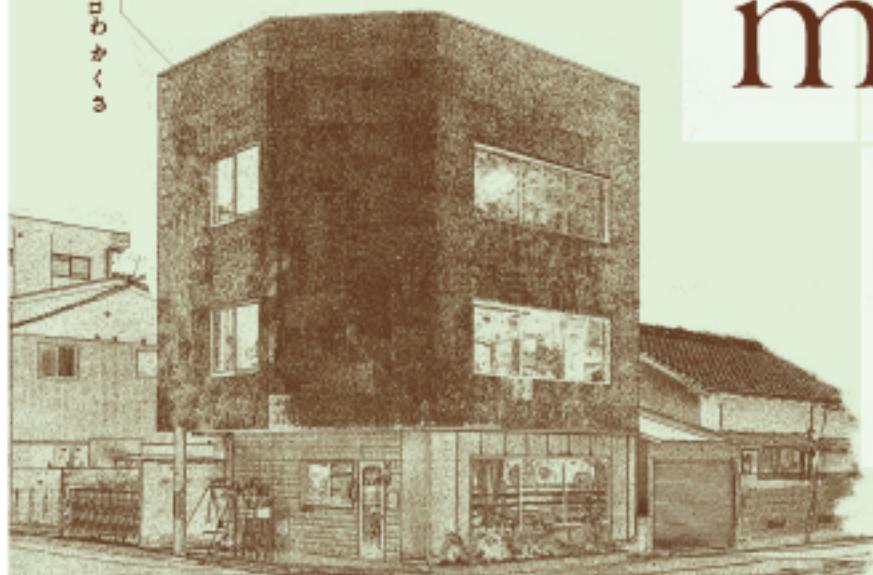
古民家リノベーションというと古いものに新たに手を加え、別のものにする例も多いけれど、梁などの構造、道具、窓ガラス1枚に至るまで可能な限り残すためにどうするかを考え、もとの姿に戻せることまでを考えた一可逆性のある改修の大切さを実感。「木屋旅館のおかげで、他の場所でも価値のある家に気付いてもらい、壊されることなく残せたという話もあった」というグレープさん。異国情緒の観点だからこそ気づけた歴史的価値は、これから多くの人に気づきを与えてくれるはずだ。

2階の床の一部をアクリル板にし、
1階から墨書きの床まで見上げ
ことができる。アクリルは外して床
を再せば元通りに、優しい工事で作
られている。



上_大井部分などに使われた開口は、職人に依頼して作成。昔ながらの東
洋の手に入りにくくなっている、ガラス戸も出来るものを利用。下_かつて風呂場に使われていた床の石などを残しながら、ライティングで墨書き
を施した。

maison口わかくさ
3F : saw design office
2F : みんなのスタジオ
1F : わかくさ珈琲



maison わかくさ

maison口わかくさ わかくさ珈琲編

ずっとそこにある幸せ

街の景色は

気づかないうちに変わっていく。

そんなアップデートに

ちょっぴり切ない気持ちを

感じることが多かったから、

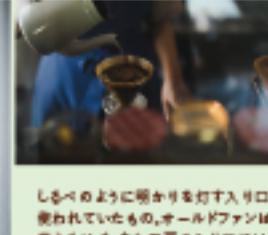
とても嬉しいなった。

松山市若草町、

お湯のそばの小さな喫茶店から、
カレーと珈琲の香りが
こぼれできたこと。



maison wakakusa
saw design office
wakakusacoffee



しあわせのように明かりを灯す入り口のランプは、直角で
使われていたもの。オールドファンはその光に映かしよ
見えるはず。また裏面の入り口にはかつての玄関ドアを
再利用。古きものが蘇り出すあたたかな雰囲気に、変わ
らない「わかくさ珈琲」を感じることができます。

はじまりは、建物へのひと目惚れ

新しいけどなんだか懐かしい、
そんな場所へと生まれ変わったわかくさ珈琲。

住宅やお店など、さまざまな建物を設計している叶さん。その起点とも言えるのが、お湯のそばの「わかくさ珈琲」。ある日、坂道を歩んでいた叶さんは、街角にある歴65年を超えた木造二階建ての喫茶店にひと目惚れ。「なんとも言えない愛嬌を感じ、後先を考えず、この建物を借りていました」と笑う。1階は喫茶店、2階は設計室として、気づけば15年の歳月が過ぎていた。昨年、80歳を迎えた建物に愛着を抱きつつ、建て替えることに。新たな時を刻み始めた「maison わかくさ」は、そこかしこに旧店の影が残っている。新しいけどなんだか懐かしい空間で、どうぞゆっくり。ところで設計室はどうなったの? そのお話をまたの機会に。



「わかくさカレー(850円)」は叶さんのお母
さまが仕込み担当。ティーアウトして窓之内
で味わうの人も、「プリンとピスコッティセット
(550円)」はしっかりとした食感がgood。



わかくさ珈琲

T791-0808 愛媛県松山市若草町2-10 1F TEL:089-6650-5360
営:11:00~16:30(16:00LO) 休:土・日曜・祝日



saw design office T791-0808 愛媛県松山市若草町2-10 3F TEL:089-593-5945

使うほどに愛着深まる、暮らしに馴染む住い家具を。



100年かけて育った木は、せめて100年使えるように設えてあげたい。日本有数の家具の産地、飛騨高山での修業時代、この考えに触れた野中祐生さん。故郷の愛媛県に工房「木工ノニネ」を立ち上げ、永く使えるものづくりに打ち込んでいる。「永く使える=丈夫であることはもちろん、手仕事ならではの柔らかな曲線、無垢の手ざわりといった要素で日常に馴染むものを意識し、家具や暮らしの道具を製作している。

木は板になってしまって生きており、温度や湿度の変化によって伸縮や反りが出る。そこで、使い手の要望や家具の種類に応じて適した樹種の無垢材を選んだ上で、大きな一枚板から「木取り」を行う。たとえばテーブルの天板には反りが出にくい部位、脚には強度のある硬い部材という具合に。工法にも、金具や接着剤に頼らない伝統技術を継承。台形に彫った溝に楔を叩き込むアリ棒など、木の神経に対応する技術により、手仕事でおさめていく。

「自分自身の『こういう家具が作りたい』という思いより、お客様に永く愛着を持って使っていただける家具が理想。好みや趣向を読み取り、喜んでもらえるデザイン、機能を持たせることは嬉しい反面、応えるやりがいは大きい」と語る。打ち合わせには妻の真由美さんも同席し、生活者の視点で多角的にヒアリングし、クライアントの暮らしに寄り添うものづくりをめざす。

工房は、遠くに山々を望む高台にある。おおらかで、やさしくて、清々しい。そんな野中さんの家具がよく似合う場所だ。この夏完成を予定しているショールームへも足をのばしたい。



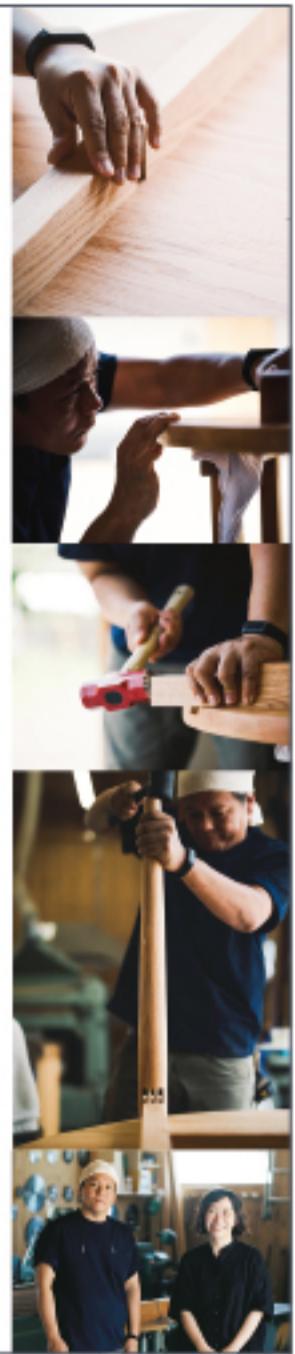
詳しくは
動画を
チェック!



mokkou no niine
info@mokkouniine.com

愛媛県東温市北方1511-5 TEL 090-5144-0517
<http://www.mokkouniine.com/>

公式
インスタグラム



日本一の産地で80余年。
5代に渡って受け継がれる、
技と心でつくるみかんジュース。

きらめく宇和海に面して急傾斜の段々畑が天に至る、愛媛県八幡浜市内瀬地区。この地で80余年にわたって、温州みかんの最高峰の産地でみかんをつくり続ける家族がいる。代々受け継がれるみかん畠は、品質のよいみかんづくりの条件といわれる3つの太陽、「天の太陽の光」「海面からの反射光」「石垣からの反射光」が見事なまでに揃っているが、特に日の出から日の入りまで太陽が輝き、内瀬地区でもごく限られた畠では、甘味と酸味のバランスがすばらしく、とろけるような畠上の味わいのみかんが育つという。

歴代の当主がたゆまぬ努力で生みだし、磨き続けてきた。水の管理や土づくり、剪定、摘果などの高度な栽培技術はもちろん、移り変わる時代を見つめ、常に新しいことに挑戦する心も継承してきた。

「祖父の時代は量を求め、父は品質の向上に力を注ぎました」。そう話す5代目が力を入れているのがジュース事業。手搾りに近い製法で、果実部分を搾った果汁と、まるごと搾った果汁の2種類を独自の比率でブレンドしたジュースは、まるやかで風味豊か。フルーツソムリエに「みかんよりみかんの味がする」と言わしめた逸品だ。

平成14年に、高品質でありながら規格外の出荷できないみかんを何とかしたいという想いから生まれたジュースは、今では種類も増え、両子一喜のみかん農家の収入源にもなっている。「うちには、人とのつながりを大切にせよという教えもあります。代々、受け継がれてきたものを次の世代に譲るためにも、地域の皆さんとともに、さまざまなことにチャレンジしたい」。時を越えて変わらぬ海と山の絶景の中、新しい未来が実を結び始めている。



BOOK & MUSIC

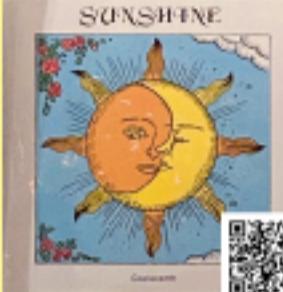
#01

レコードや古本に詳しい人の人が「とっておき」をピックアップ!

今月のピックアップMUSIC

Coelacanth(シーラカンス)
SUNSHINE

愛媛県を中心に活動する2008年に結成された5人組編成バンド[Coelacanth(シーラカンス)]。メンバー5人の多様な音楽造形から織り出されるサウンドはとても心地良く、2024年5月にリリースされた彼らのEP「Sunshine」には全2曲が収録されており、大満足の一物になっている。



マチボン編集スタッフ みのり
入社1年目。本と音楽が好きですが、まだ知識が乏しいので質問が本や音楽とともに多いです。

メロウで洗練された彼らの音楽は一度聴いたら虜になることは多いです。

愛媛県内のイベントに参加し、ライブも行っているので、最新情報は彼らのインスタをチェック!!

#01 つくられたお土産
スタンド 湯と青森。
今回レコードを購入してくださった「スタンド 湯と青森」さんはお湯と青森の美味しいお土産を販売しているのです。

JR/松山市二番町2-1-14
営/不定期

#01 こだわりの焼き菓子が生むbakeshop

マチボン編集スタッフ 宮見真美
美味しいものだけを運営スタッフが全力でおすすめしていくよ!

【ファン説】
大人気クロワッサン

Well 松山市桜島2-2-5-18
電/080-2922-2510 営/金・土・日曜・祝日 11:00~16:00

行かずに死ねるか。

今行きたい! イベント情報
2024.07-09

せとうちみなとバルシェ

せとうちみなとマルシェが夏は桜開催となり「せとうちみなとバルシェ」に華やぎ。グルメを楽しめる店舗が今後も並ぶ。また、JAZZとこだわりの料理が楽しめる「海の豪華レストラン」も登場。賀茂を味わうなら是非お出でください。

開催日時/8/17(土)、8/31(土)、9/14(土)、9/28(土) 17:00~21:30

QRコード
セトウチみなとマルシェ
公式HP

SADAMISAKI
体験博2024

佐田岬半島でこの夏、「仲間」が味わえる全30件の体験プランをビールと一緒に「海遊び」「野遊び」「グルメ」「暮らし・文化」の4つのジャンルから選べ、どれでも楽しめる。佐田岬でしかできない体験で素敵と思う出でできること間違いなし!

会場/伊方町・野市町・一色町(佐田岬半島) 佐田岬観光センター 佐田岬半島観光センター
TEL/080-22-50031 受付時間 午前10時~午後5時(最終受付) 予約料金/大人3,000円(子供1,500円)

酒場放浪記

#01
勝手に紹介
気になる酒場を

松山の夜に八乃寿あり。

やはり記念すべき1回目やることでしょー! 私の大好きなお店のひとつ、「八乃寿」。10種類のカウンターのみの洒落た店内で、愛嬌たっぷりお父さんが手際よく注文を聞く。(その背中を見ているだけでも腹が温む)メディア報酬はすべて断っていいというスタンスの中、勝手にひっそり紹介すくべからんと、こっそり書籍許可をいただいたのです、どうなたさまもぜひ、行くときはこっそり…。

マチボン編集スタッフ
わたなべ
このコーナーをきっかけに、いつも行くお店だけじゃなく、まだ見ぬお店も紹介していきたいと思います!

八乃寿 松山市二番町2-5-1

つくり手
芭のうら
01
春

森のひとしづく
百花蜜
3,100円(内容量120g)心をつなぐ優しい
「はちみつ」

吉見さんとの出会いは、農業経営を目的としたイベント「青い鳥マーケット」。イベントでは、「佐山・吉見の事業所さんの取り組みや工夫を見て刺激を受けます」と言うチャレンジ精神旺盛な方です。日々、利用者さんの社会的立場を作るために様々な取り組みをされ、その一つが八幡浜のみかん園に囲まれた場所で栽培している「豊かな日本ミツバチ」。日本ミツバチはとても結構で脚が嬉しいそう。今度はこの豊かな「はちみつ」を数量限定で確保されました。是非お楽しみください。

マチボンECスタッフ ヤマチヤン
愛媛の方から購入で特典付き。
購入者が見つけた「これぞ!
」を私共もご紹介しています。

QRコード
購入ページ

マチボン編集部が集めてきた
いいモノあります

#01
パン

愛媛昭和遺産
現代に残る昭和の
世界にこだわる昭和の
パン

パンとコーヒーの魅力に没する

パン & コーヒー
アラベイシ



Dアを開けると、そこには地元をイメージした店内が広がる。奥にあった木の横こりや、茶などを使い、こだわりぬいた鉢鉢。パンが浮いているように見える工夫や、異空間を出すBGM、身寄りのティストのお庭など、ワクワクが止まらない。ドリンクのティアカ外も◎!

マチボン編集スタッフ 宮見真美
おしゃれな隠れ家パンはコーヒーは欠かせない。みんなの幸せ空間のお手伝いできますように!

ジン・ム
佐多郡内子町内子2995
電/080-4035-0502
営/11:00~17:00(dine月・火・金)

あとがき

コラム頁、リニューアルしてみましたよー!

時代とは逆行しているかもですが、やっぱタウン誌はスタッフ達が足を使って、手間暇かけてなんばでしょ、知らないかったこの街の魅力を、まずは自分たちが楽しめて休憩しないといけなわけで楽しんでいただけたら幸いです。

次号でまたお会いしましょう♪

Staff List

editor in chief
松下紹介marketing staff
吉井恵理子 鹿児島県鹿児島市
吉井英裕 鹿児島県鹿児島市
松本みのり 宮崎県宮崎市editor
柳原桂樹 高橋実穂里 佐藤里奈
日向美穂 熊谷里佳designer
土屋真由香 伸真奈 菅原貴大webstaff
山本輝弘contributor
阿部英輔子 本多功士
美空美介 稲光悠也
西脇丸み 木曾聖香美 佐野裕子cover illustration
アイハラナガ専行人 / 関根充志
編集人 / 朝日あい

マチボンジャーナルvol.007

著者/株式会社エス・ピー・シー
愛媛県松山市源町4丁目2-5
連絡先 080-945-1139
郵便番号 080-934-7272

印刷/セイタ株式会社

監修資料は
2024年7月25日時点のものとなります。
本誌掲載の写真、イラスト、記事の
無断複数複数は禁じます。

Next Issue

Camper's Delight!
見近島キャンプのすすめ
2024年9月30日(月)発行

COMPACT'S SNAP

#01 A POSTER GIRL OF
HAPPY BAGEL

長谷部 莉梨さん

#her favorite things

#COFFEE

#PICNIC

#FLOWER

お私の推し店員さん
#01

お私の推し店員さん

#01

COMPACT'S SNAP

#01 A POSTER GIRL OF
HAPPY BAGEL

長谷部 莉梨さん

#her favorite things

#COFFEE

#PICNIC

#FLOWER